

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.2.28)

河口無線で開催されたノアのソナスファベール「Lilium（リリウム）」試聴会に行ってきました。なんとペアで950万円のスピーカーで、その他の機器を合わせると2000万円にも及ぶという豪勢な試聴会です。



使用機材は次のとおりです。

スピーカーシステム：ソナスファベール **Lilium**

プリアンプ：ブルメスター035

パワーアンプ：ブルメスター911mk3 ×2台（バイアンプ駆動）

SACD プレーヤー：ソリューション 540

試聴の間にリリウムの説明がありましたが、非常に凝った作りで、高額商品になってしまった理由も領けました。

http://www.noahcorporation.com/sonusfaber/201408lilium_release.pdf#search='%E3%82%BD%E3%83%8A%E3%82%B9%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%99%E3%83%BC%E3%83%ABLilium'

まず、最初に、恒例の女性ボーカルとソプラノのソルベイグの歌から始まりましたが、リッチなサウンドでありながら透明感のある声が印象に残りました。

次に、ヴァイオリンとギターデュオ、ショスタコーヴィッチの交響曲などが続きましたが、ソロ楽器も美音系、オケも迫力よりは美音系の音がしていました。

さらに、トランペット、サクソ、ギター、トランペットとチェロなどが続きましたが、いずれも非常にムーディで睡魔に見舞われてしまうようなひとときでした。

続いての内田光子のモーツァルトのピアノ曲も実に可愛らしい綺麗な音で鳴っていましたし、サンサーンスのオケもオルガン曲も流れるような美音の連続でした。

リリウムが最も真価をしたのはオペラのアリアとワーグナーの合唱で、良く唄うこのスピーカーの真骨頂を聴かせてくれました。さすがイタリアのスピーカーという印象です。全般を通じての印象は美音系の音作りがなされているようで、イタリアのスピーカーだけあってオペラなど、歌ものを十全に聴かせてくれるようでした。オーケストラでもブルックナーやブラームス、またバッハなど音楽と対峙して聴くような場合は、音が綺麗になりすぎて厳しさが出てこないくらいがあるかも知れません。内田光子のピアノももう少しスタンウェイらしい豪快さがあって良かったかもしれません。最近のハイエンドの抉り出すような、分析的な音とは違った、美音への愉悦の喜びをもたらしてくれるシステムのように感じました。